

	資料4 横浜市の課題・問題点や望む政策(賛同人の声・団体除く)
基本	国道16号線を東京視点で見るのでなく、反転させる視点を持つ人を候補に
基本	市民が声を出させるようなシステムを作るべき
基本	市民の意見が政策に反映されにくい。各種審議委員会の不明朗なプロセスで決定、財価審議も問題
基本	横浜市は様々な可能性があり、住民が主人公となって地域づくりをする
基本	飛鳥田市政以来の住民自治を、コロナ禍の中で実現する必要がある
基本	いのちを大切にすること
基本	横浜型・横浜独自と言いながら、横浜のスタイルが明確になっていない。国策の実験場ではない
基本	間接民主主義の補完システム（市民の意見を行くシステム）「市民委員会」の設置（別紙）
基本	開港以来、先輩方の作った素敵な横浜の町を、次世代に残したい
基本	カジノは反対。市民の声が届く政治
基本	カジノは必要ない。高齢者の充実、教育の質の向上、全ての年齢層が安心して暮らせ、全国に誇りの持てる市
基本	カジノに頼らない具体的な政策。明確な策を持った市長を
基本	現場を無視している市政、横浜に住んで良かったという政策を
基本	カジノは国の政策に追従している
基本	住民投票条例の制定を求める声に応えない市長と議会は二元代表制の機能を果たせていない
基本	市民に本当に寄り添う政策を
基本	「都心臨海部1極集中型開発市政」から「市民の命と暮らしを優先し、誰もが住みたくなる郊外部、持続可能な市政」への転換
基本	自然エネルギー公社創設、地域経済循環構造への転換。市民参加型「炭素ゼロ」の環境先進都市
基本	個人市民税は政令市1、2位、しかし民生費、衛生費、商工費も政令市平均以下。生活保護費は6大政令市最低
基本	法人市民税は少ないにも関わらず、土木費は政令市一番。
基本	IRに頼らなくても横浜は十分魅力ある都市。人にやさしい、誰もが安心して暮らせる街づくりを
基本	市民の声、思い、生活に寄り添う政治を
基本	市民の命と暮らしをどう守るのか、問われている。
医療	ワクチン接種、全く連絡できない状況。住民の側に立った施策を取っていない証左
医療	コロナ対策の不備、横浜の接種率が全国45位はひどすぎる
医療	コロナ危機から市民の命と健康を守る緊急対策
教育	教育力が下がっている。中田市長から始まる教育への介入など事実を直視しない状況が生じている
教育	子ども達への対応が遅れており、居場所（地域での子育て活動）を充実すること
教育	図書館の充実
教育	学校教育現場ICT活用の推進
行政	旧市庁舎の敷地をたたき売りするなど、住民無視の政策をやめるべき
行政	区固有の問題解決に対して、画一的な施策の適用で地域住民の満足度が低くなる
行政	区裁量の予算が少なく、課題解決の、きめ細かさ欠ける
行政	新庁舎の市民排除（利用のしにくさ）の問題
行政	情報開示の不十分さ
行政	市民からの提案や質問への回答のいい加減さ
行政	パブリックコメントの形式性
行政	審議員選出の問題・選挙管理委員会委員の選出の問題
行政	区民会議の再生
行政	町内会のあり方
行政	ふれあい掲示板（市民間情報ツール）の再活用
行政	寄せられた市民の声の記録
行政	行政の会議・打ち合わせの記録保存
行政	市民参加型の市政
行政	市民自治を保障する
行政	市民自治の実現。50年後の横浜の未来を構想する市政を実現
建築	戸部警察署など古い公共施設の建替え、災害時に危険
建築	インフラ維持管理の認識低く、箱物を作る政策の方向転換の時
交通	上瀬谷の新交通システムの予算は大きすぎる
産業	横浜のイメージは港と海、魅力をアピール
産業	食糧問題が重要になるので、横浜の農業を発展させることが大切
産業	食を支える農支援、流通体制の見直し
産業	持続可能な産業経済政策
市会	傍聴の意味と役割
選挙	横浜未来構想会議が主導権を持ってカジノに反対する市長候補を決めるべき
道路	歩道の充実、車が通ると人が歩けない所が多々ある
道路	必要な道路建設は横浜市予算で。開発事業者に作らせる手法は、必要ない開発や業者癒着を招く
都市	カジノ誘致をさせないことは前提条件
都市	横浜内陸部の生活環境向上
都市	カジノ誘致は阻止
都市	オペラハウス・テーマパークの中止
都市	イノベーション都市ヨコハマを望む
都市	カジノ推進、1000億の増収は根拠薄弱、大きな政策決定はデータの「ファクトチェック」を行いオープンに
都市	異文化を受け入れた住民主体のまちづくり
都市	人口減少に向かう中、住宅開発で自然破壊をすることはやめるべき時
都市	横浜で働くことが楽しく、誇りを持てる街づくり、ゆったりとした空間の維持
都市	自然と共存する住環境、教育環境の維持。町会機能の見直し
都市	カジノは幼い子どもたちの未来を汚す。カジノに頼らない横浜を
都市	誰もが住みたくなる郊外部
福祉	「地域ケアプラザ」を地域住民の拠点として、地域に密着した活動に進化させる
福祉	横浜市は高齢者福祉や障がい者福祉は、国の政策以上の支援策はほとんどない
福祉	市民の命と暮らしを守る
文化	横浜の歴史と文化を重くおく政策を
防災	久保山墓地の整備、景観が悪く災害時に危険（避難地になっているのはあり得ない）

《横浜市長選挙政策提言》

「子どもの権利条例制定、子どもを大切にする市政を」

2021.6.20 小川道雄

子どもたちをめぐる危機的状況は深刻である。6月1日NHK朝のニュースで「命を絶つ子どもたち」が報道された。動機は不詳と母、友人は語っていた。似たような事件の報道は続いており、何とかならないのかと胸が痛む。

政治の世界では子ども庁設置が論議となり、菅政府、自民党では2022年骨太方針の主要テーマ、衆議院選挙の目玉政策と打ち出されていたが、6月9日の経済財政諮問会議ではグリーン、デジタル、地方と並ぶ四つの課題、重点的投資で力強い成長の柱とはされたが内容はしりつぽみ、メディアも報道しなくなってしまった。

「児童虐待最多を更新」「児相2職員わいせつ疑い」、子どもの貧困率、シングルマザーの半数貧困などの報道が続く中で、横浜市政の子ども政策の検証と子どもを大切にする市政の確立が問われている。

1. 横浜市子ども青少年政策の現況

①子ども青少年局

- ・「横浜市子ども・子育て支援事業計画」～子ども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン～
- ・横浜市子どもの貧困対策に関する計画、児童相談所等

②健康福祉局

- ・障害福祉
- ・生活保護、小児医療費、ひとり親家庭等医療費、国民健康保険等
- ・公衆衛生、がん検診、予防接種、感染症対策、食の安全、健康づくり、動物愛護等

③教育委員会

- ・学校教育全般
- ・教職員の配置、管理
- ・生涯学習

④政策局政策課

⑤市議会

- ・政策・総務・財政委員会 委員長・草間剛（自民党）副・有村俊彦（立憲）福島尚子（公明）
- ・こども青少年・教育委員会 委員長・斉藤真二（公明）副・長谷川琢磨（自民）麓理恵（立憲）

2 検証、問題点

① 子どもをどのような存在として規定し、政策を実施しているのか？

- ・全体を通して子どもを「権利主体」として規定せず、保護対象、教育対象としている。
1994年に国会が批准した国連「子どもの権利条約」が触れられているのは教育委員会人権教育・児童生徒課の「知ってますか？子どもの権利条約」（A4、4ページ）のみ（在庫なし、ホームページのみ）
- ・「子ども支援」「最善の利益」「保護」対象・・・行政のサービスは匙加減で決まる。
- ・行政の密室性、福祉サービスを貫く「行政処分」の考え。「主権者教育」「教科書選択」の問題性

② 子どもの貧困対策の薄弱さ

- ・1947年児童福祉法制定、2014年「子どもの貧困対策の推進に関する法律」施行。2016年児童福祉法改正
- ・横浜市子どもの貧困対策の推進に関する計画（2016-2020）策定
- ・児童相談所児童福祉司増員（2016年91名→2020年182名）

③ 行政の縦割り組織の弊害

- ・子ども青少年局（児童相談所）、教育委員会、区役所（子ども家庭支援課）・特に学校と児相⇒県警少年課

④ 教科書選択への政治介入

- ・教科書選択を全市一括とし（学校教師の意見無視）、政治的意図を押し付け

⑤ 主権者教育の不合理な推進（教師意見の中立化、論議から排除）

⑥ 事務局が4局にまたがっているのに市長首脳部局の関与がない（最低でも副市長が関与すべき）

⑦ 子育て子ども支援の予算の少なさ

3 「子どもの権利条約」を踏まえ、「子どもの権利条例」を制定し、行動計画を策定するなど 横浜市の子ども政策を検証し、抜本的に転換させよう！

- ① 子ども1人1人かけがえない価値と尊厳を持っており、その人としての権利は保障されなければならない。子どもたちは権利の主体として、社会を構成するパートナー、次代の担い手として行政、地域社会が協力して育て、支援する。
- ② 子どもの権利条約（1994年に国会批准）を踏まえた「子どもの権利に関する条例」を制定（川崎の事例）
- ③ 上記条例に基づき、子ども政策全般を検証し、「行動計画」を策定する。
- ④ 上記条例に基づき、独立行政機関として「子ども人権委員会」を設置し、「オンブズパーソン」を配置する。この機関は関係者に「勧告権」を持つものとする。
- ⑤ 「横浜市子ども会議」を設置し、行政施策への意見反映を図る。
- ⑥ 「子どもの貧困対策推進会議」を市長直属の機関とし、市内の関係有識者を総結集し対策を推進する。介護保険と同様、貧困率削減の数値目標を入れる。
- ⑦ 児童相談所を最低6か所とし、増設する（現行4か所、改正児童福祉法50万人に1か所）
- ⑧ 各区子ども相談窓口を抜本的に強化するため、体制整備を図る。併せて児相等の専門機関、学校との連携体制を整備し、市民参加、協働を追求する。
- ⑨ 学校教育、校外教育を問わず教育の場で主権者教育、性教育を推進し、必要な支援策を講じる。
- ⑩ 子ども関係予算の抜本的増加を図る。

《資料1》「日本財団・18歳意識調査」（毎日新聞6/6号、「時代の風」参照）

《資料2》「児童虐待 最多を更新」横浜市、相模原市、神奈川県（神奈川新聞）

《資料3》「子どもの自殺」（論座）

《資料4》「川崎市子どもの権利条例」（中高生版）

《資料5》「子どもの貧困対策の推進に関する法律」（横浜市推進会議の資料より）

《資料6》「子供の貧困対策に関する大綱のポイント」（令和元年閣議決定）（横浜市推進会議の資料より）

《資料7》「デジタル教科書」神奈川新聞6.19社説

《資料8》「お互いの体を知り守る」産婦人科医遠見才希子さんが語る（神奈川新聞6/19）

《資料9》立憲民主党「子ども総合基本法」案 5/31衆議院提出

横浜から文明再開化 イノベーション都市ヨコハマ

夢と希望の溢れる横浜づくり

- 山下埠頭にイノベーションセンター
- 旧上瀬谷通信施設跡地に未来都市
- 超知能ロボットの開発（日本版アポロ計画）

政策提案：中野敬三

横浜の現状と問題点

- カジノ誘致に関する住民投票条例の請求が否決
- 市民の市政に対する期待の喪失と無関心
- 若者の未来に対する失望感と無力感
- コロナ対策・パンデミックに対する対策
- 京浜工業地帯の低迷（製造品出荷額第3位）
- 横浜の遊興地化と経済・産業の弱体化
- 少子高齢化社会（若者の負担が増大）
- 財政の脆弱化と福祉の貧困化と格差拡大

必要な市政と解決策は何か！

文明再開化（イノベーション）

1. 明治の文明開化

欧米の科学技術、文明が横浜から流入
産業革命以降、働き手は人間と機械

高度経済成長により世界第2の経済大国に

2. 経済の空洞化

安い労働力を求めて、工場の海外移転
国内産業の衰退と社会の貧困化

3. AIとロボットによる文明再開化

働き手はAIとロボットが中心の未来社会

必要な時代認識

- **Society5.0**: 我が国が目指すべき未来社会

狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、**新たな社会** (第5期科学技術基本計画)

- **2045年にシンギュラリティ**

AIが人類の知能を超える転換点 (技術的特異点) のことで、人間の生活に大きな変化が起こる

- AIやロボットが活躍する時代

ギリシャ・ローマは奴隷の働きで豊かな社会

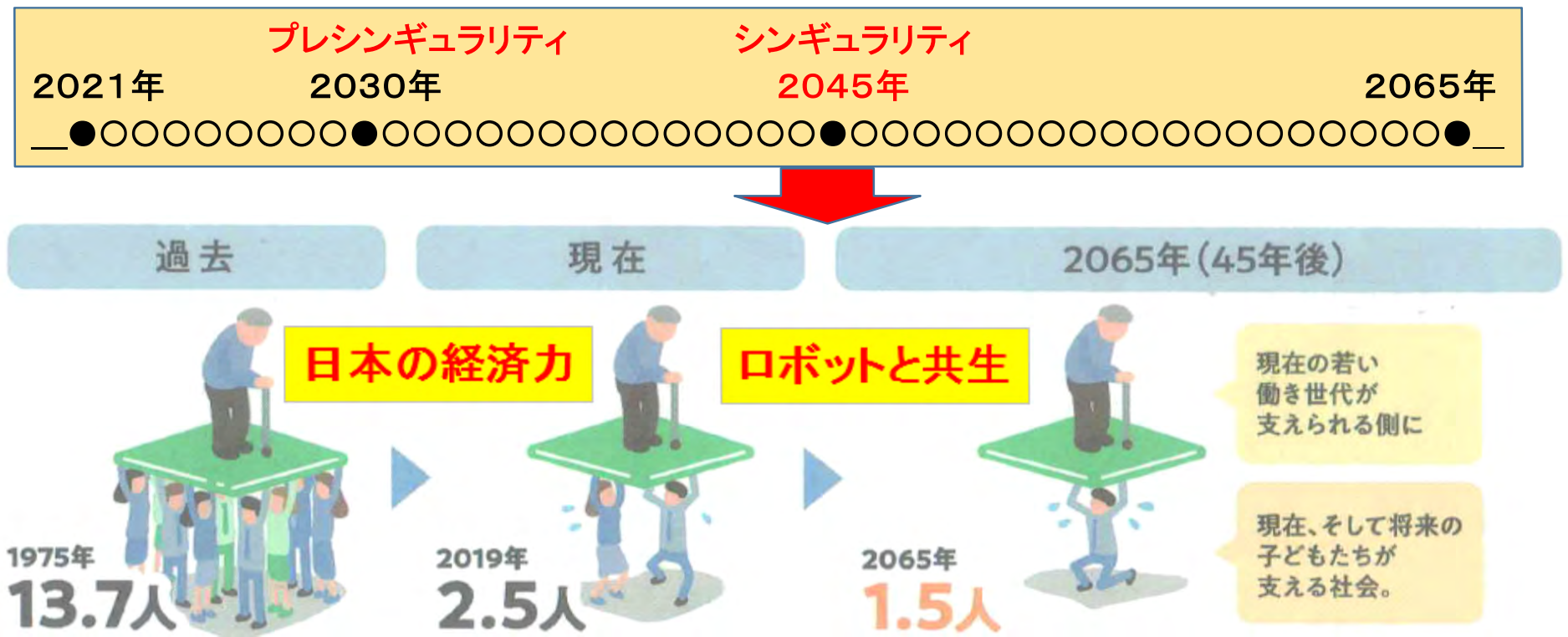
Society5.0は**ロボットの働きで豊かな社会**

Society5. 0の社会



2045年にシンギュラリティ

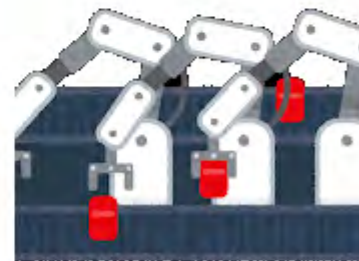
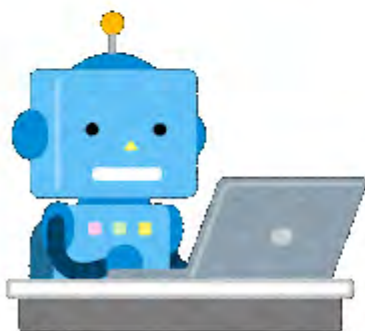
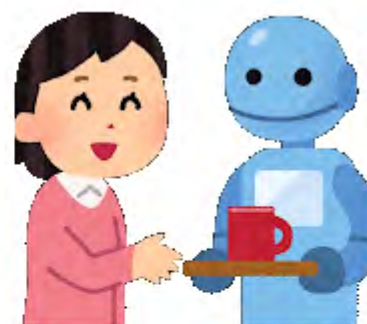
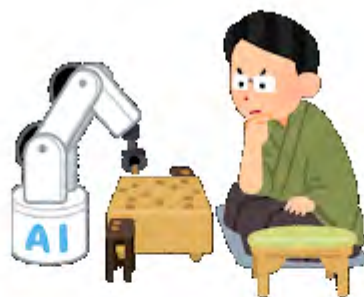
2045年には、AIの知能が全人類の知能を越えるシンギュラリティが起こります。2030年のプレシンギュラリティからAIと作業ロボットが本格的に利用され、人間とロボットとの共生社会になります。



上の図は、広報よこはまの図に日本の経済力とロボットと共生を書き加えたものです。

AIやロボットが活躍する時代

人間とロボットが共生する社会になります。



文明再開化の3大事業

- 山下埠頭

イノベーションセンターを建設 (34ha)

- 旧上瀬谷通信施設跡地

未来都市を建設 (242ha)

- 超知能ロボットの開発

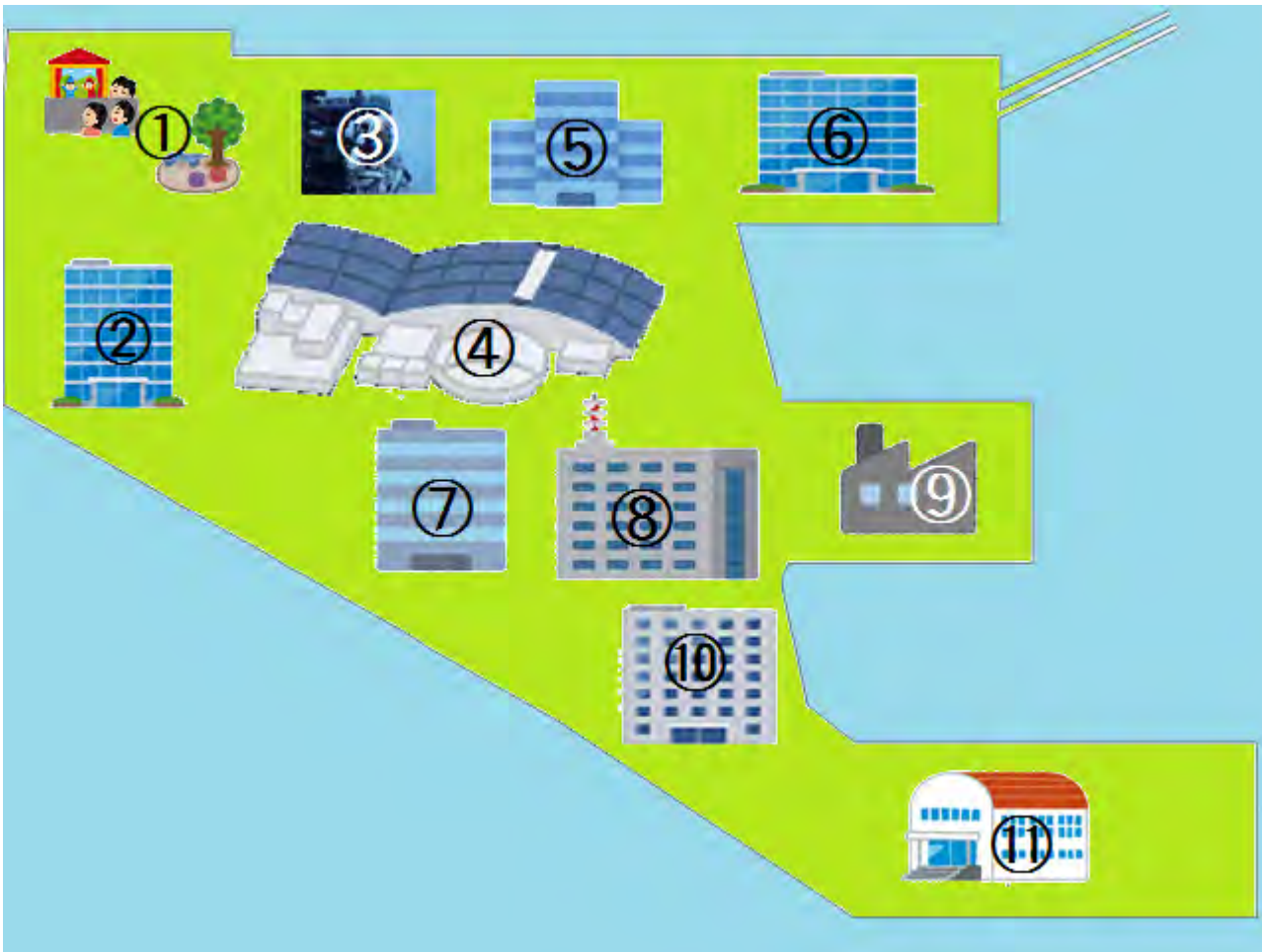
少子化社会対策

高齢化社会対策

ベーシック・インカムの支え手

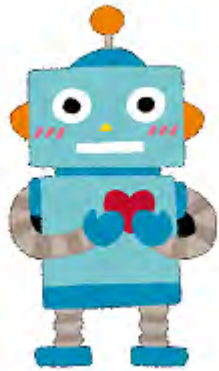
日本版のアポロ計画です。

(1) 山下埠頭にイノベーションセンター



- ①子ども遊園地
- ②教育センター
- ③ガンダム・ロボット展示場
- ④展示・イベント会場
- ⑤AI・ロボット開発センター
- ⑥デジタル開発センター
- ⑦創業起業支援センター
- ⑧ハイテク開発センター
- ⑨製造センター
- ⑩物流ハイテクセンター
- ⑪テスト実験センター

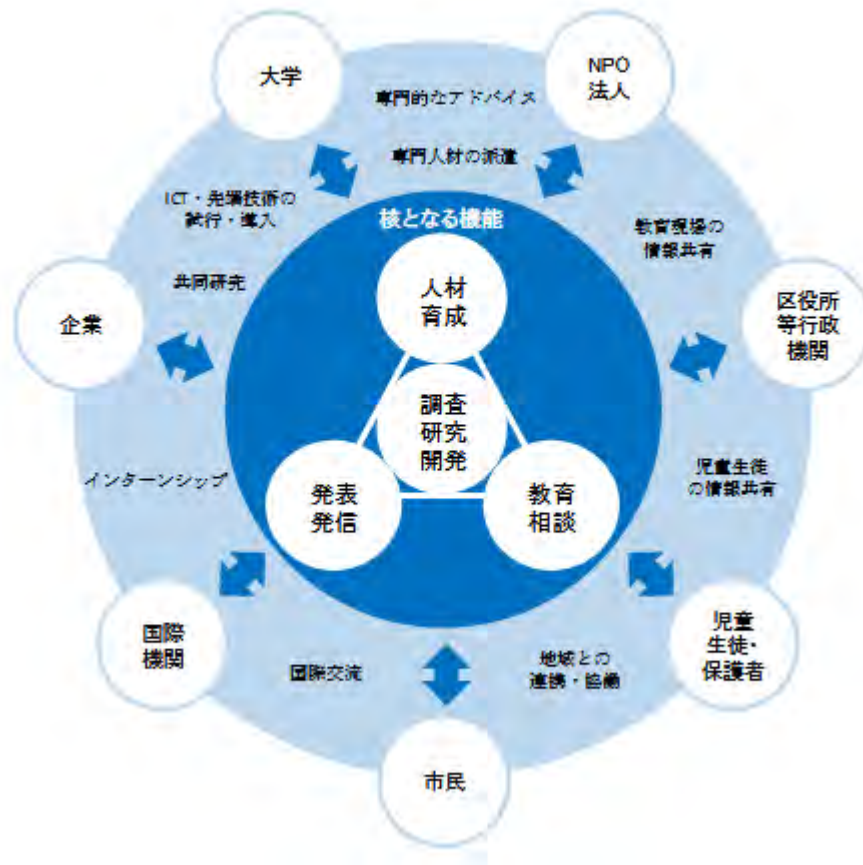
①子ども遊園地



- 家族で楽しく過ごせます。
- 動物型ロボット等と楽しく遊べます。
- 子どもの頃からロボットに親しめます。
- 山下公園と港の見える丘公園との一体化
家族の憩える大規模公園にします。

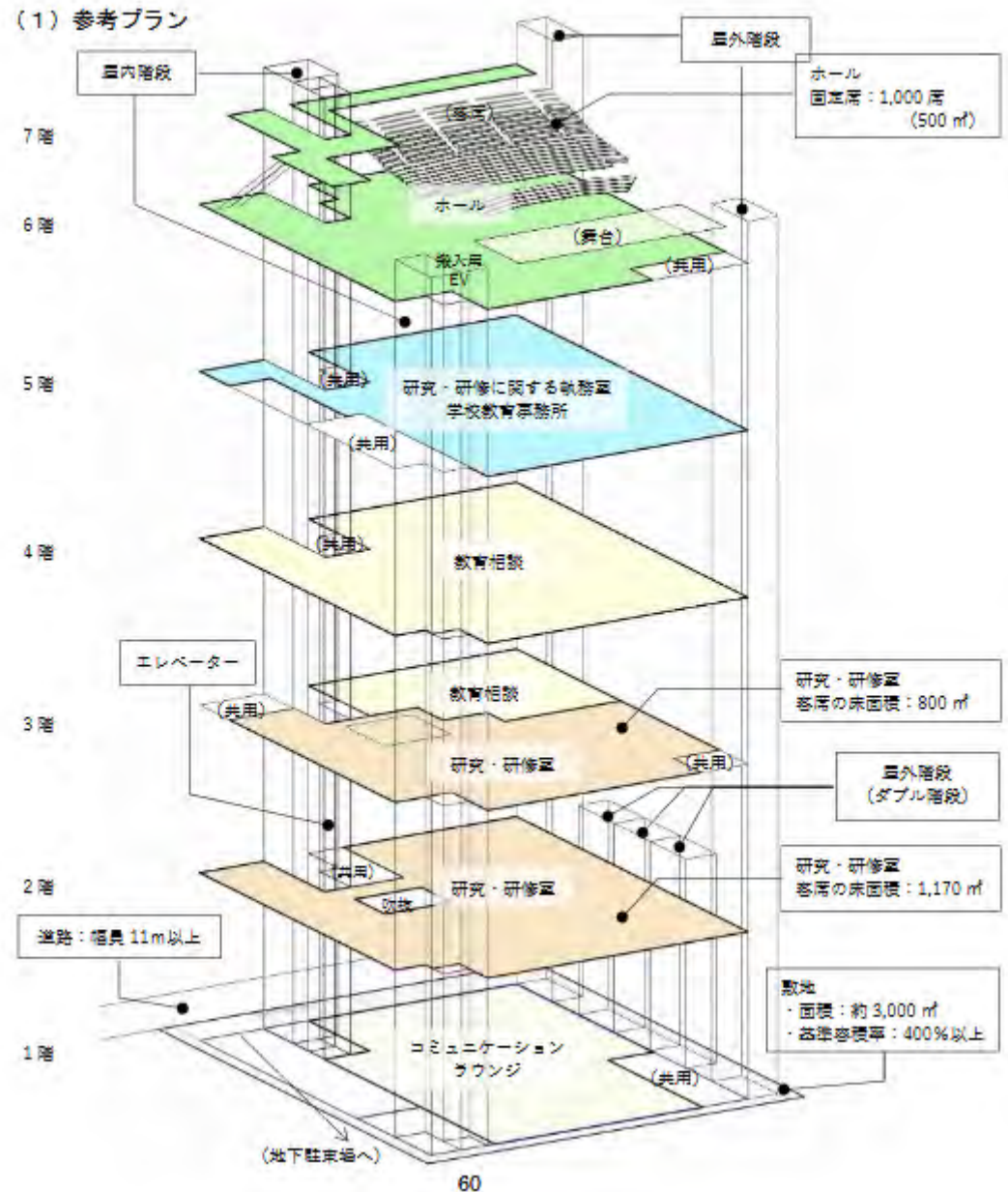
②教育センター

新たな教育センターの概念図



建物面積は約12,000平方メートル
横浜市は建設用地を公募中
山下埠頭に建設すれば用地費用はゼロ

(1) 参考プラン

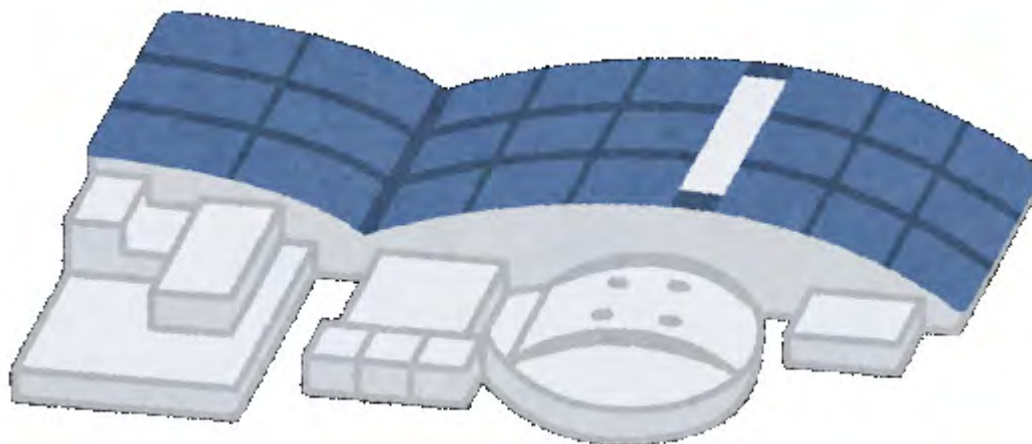


③ガンダム・ロボット展示場



- 日本の技術者の結晶 動くガンダムの展示
- 世界の各種ロボットを集めて展示と学習
- 各種作業ロボットの動画を表示して説明
- ロボット技術の説明や情報交換

④展示・イベント会場



- 各種ロボットコンテストを実施
- 創業・起業のイベントを開催
- ハイテク機器・ハイテク製品の展示
- 中小企業も安価な費用で展示が可能

⑤AI・ロボット開発センター

- 2045年頃にシンギュラリティが起きる予想
- AIとロボットが主要産業の一つに発展
横浜市には非常に多くの中小企業が存在
AIとロボットの技術を取り入れ、開発力を強化
世界の開発競争に、横浜市と企業が本格参入

横浜をAI・ロボット開発の中核都市に

- さがみロボット産業特区との連携
- かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会と連携

⑥デジタル開発センター

- デジタル技術の開発
 - ハードウェア
 - ソフトウェア
- デジタル製品の開発
 - ハードウェア
 - ソフトウェア
- 都市OSの研究開発
 - 日本の標準都市システムの開発

⑦創業起業支援センター

- 創業起業支援の現状

- ① 関内フューチャーセンター マスマス

- ② YOXO BOX

- ③ F-SUSよこはま(女性起業家専用シェアオフィス)

いずれもシェアオフィスが中心で小規模・不十分

- **本格的で大規模な創業起業支援センター**

イノベーション・センターの中心施設のひとつ

AIやロボット等の先端技術の支援を受けられる

多くの企業と交流・ビジネスマッチングができる

⑧ハイテク開発センター

- 経済の発展なくして、税収の増加は難しい。
- イノベーションにより経済は発展します。
- ハイテク技術でイノベーションを起こします。
- 技術分野を絞らず、オープンな開発センター
日本の最先端技術の開発を促進します。
再生可能エネルギーの研究開発を支援します。
- 横浜市の多数の中小企業の技術支援をします。
先端技術をリードする企業の育成の場とします。

⑨製造センター

- ロボットやハイテク機器の試作・製造を支援
企業の発展には先端技術の導入が必要です。
- 共用の製造設備
製造機器は高額です。
横浜市がこれ等の設備を準備します。
- 技術指導員の配置
設備の使い方などの技術支援も受けられます。
- 横浜市内の多くの中小企業が利用できます。
資金難の企業も新技術にチャレンジできます。

⑩物流ハイテクセンター

- 横浜は日本の代表的な物流基地です。
- 現在、大規模な物流施設は外国資本が建設
- ドローンの生産数は中国がトップ
- 日本の物流産業の振興策

日本の強みを研究して、戦略的に展開する。

ハイテク技術の応用

多様な技術（人工知能、ロボット）

国際化

⑪テスト実験センター

- ロボットやハイテク機器のテストと実験を支援
製品開発には、テストと実験が必要です。
- 共用のテスト機器と実験設備
テスト機器や実験設備は高額です。
横浜市がこれ等の設備を準備します。
- 横浜市内の多くの中小企業が利用できます。
資金難の企業も新技術にチャレンジできます。
設備の使い方などの技術支援も受けられます。

イノベーションセンターの実現方法

- 低コストで実現する方法

山下埠頭にある物流関係の多数の建物を利用
大きな建物なので、色々な使い方ができる。

建物を低廉な価格で買い取り、利用する。

- 財政から可能にする方法

当面、利用予定の無い土地を売却する。

旧市庁舎跡地（貸地にするのは遊休資産化）

みなとみらいの未使用地

横浜の産業を活性化して資金を回収する。

(2) 旧上瀬谷通信施設跡地に未来都市

首都圏で貴重な242ヘクタールの広大な土地です。

- 横浜市が計画しているテーマパーク用の観光・賑わいゾーンを生活空間ゾーンに変更し、未来都市を建設します。
- 農業振興ゾーンに農作業ロボット開発センターと植物工場



■「農業振興ゾーン」は都市型農業のモデル地区にする。農作業ロボットの開発センターや植物工場も建設する。

■「公園・防災ゾーン」は瀬谷市民の森などの現況の環境に配慮し、南東側に配置

■「生活空間ゾーン」は市民の意見を聞きながら、SDGs未来都市を建設する。

■「物流ゾーン」は物流施設集積エリア周辺である北側へ配置し、通学路の安全性等を考慮し、環状4号線東側へ配置

未来都市の交通

- 鉄道建設の再検討
瀬谷駅との接続では、都市交通として不十分
- 新しい交通システム
無人運転バスで周辺駅に柔軟に接続
オンデマンドバス、無人タクシーサービス
無人宅配サービス・配達サービス
- 横浜のアウトゾーンを網羅するシステム

物流ゾーン

- 交通の便利な場所

東名高速道路

保土ヶ谷バイパス

環状4号線

八王子街道

- 横浜総合卸センター

八王子街道の向かい側に卸団地がある。

- 新技術を活用した国内物流の拠点を形成

農業ゾーン

- 省力化で収益性の高い農業
農作業ロボットで省力化の本格的展開
植物工場などシステム農業
- 農業イノベーションセンター
農作業ロボットの開発
農業技術の研究
農産物の加工と物流の研究など
- 新たな都市農業モデルの拠点

公園・防災ゾーン

- 国際園芸博覧会のレガシーを継承する公園
広域的に利用される公園として位置付けられることを想定し、おおむね50ha
- 災害時における広域的な防災拠点
消防・警察・自衛隊などの受入に必要な広域応援活動拠点としての施設・機能
- 広域避難場所

生活空間ゾーン

- 未来の横浜づくりの実験都市
未来都市を周辺地域に広げていきます。
- 横浜のSDGs未来都市のお手本
AIやロボットと共生する未来社会
少子高齢化の問題を解決する都市
Society5.0を実現する都市
脱炭素社会を実現する都市
- トヨタの未来都市が参考
裾野市に実験都市ウーブンシティの建設を開始

未来都市づくり

SDGsとSociety5.0を実現する未来都市

- SDGs未来都市

大気中の炭素を地上に固定化

炭素の塊である木材で耐久構造物を作る

都市の建設を木材を大量に使うCLTで造る

- Society5.0の社会

人工知能とロボットが活躍する豊かな社会

トヨタのウーブンシティ

- 「ヒト中心」の街でカーボンニュートラルを目指す



未来都市づくりの方法

- トヨタが裾野市にウーブンシティを建設
トヨタの戦略的プロジェクトである。
ウーブンシティを参考にする。
- 横浜市には日産自動車
日産に働きかけを行う
横浜の商工・経済関係の団体に働きかける。

(3) 超知能ロボットの開発

- ① 必要な認識
- ② 少子化社会対策
- ③ 高齢化社会対策
- ④ ベーシック・インカムの支え手
- ⑤ Society5. 0の社会
- ⑥ ロボットと共存する社会

①必要な認識

- 国際的な開発競争
- 人工知能研究で日本は遅れている。
- これからの産業に人工知能は必須
- 人型ロボットは日本文化となじむ。
- ロボット開発を通じて遅れを取り戻す。
- 超知能ロボットの開発が必要
汎用人工知能の開発がキモ
- 日本版アポロ計画として取り組む。

②少子化社会対策

- 高知能作業ロボットが仕事をしてくれる。
- 社会の生産力は減少せず、生産増加も可能
- ロボットの作りだす生産物で豊かな社会
古代ギリシャ、ローマは奴隷の労働に依存
未来社会では、ロボットの作業に依存

③高齢化社会対策

高知能介護ロボットが介護をしてくれる。

自宅で生活ができるようにサポートします。

- 介護ロボットの開発
- 介護士に対する援助ロボット
- 認知症対策ロボットの開発
 - 徘徊防止ロボット
 - 傾聴ロボット

④ベーシックインカムの支え手

- 高知能ロボットは社会的存在

人間の知能を越える高知能ロボットができます。

高知能ロボットの考え

社会に役立とうと考えます。

個人のエゴは認めません。

高知能ロボットは社会的存在になります。

- 高知能ロボットの生産物は社会の共有物

高知能ロボットがベーシックインカムの支え手
分かち合いの経済システムが可能になる。

⑥ロボットと共存する社会

- ロボット演芸大会
- 開港記念日のパレードにロボットが参加
- ロボットと遊べる遊園地
- ロボット動物園
- ロボット競技大会
- ベ이스ターズとロボットチームによる慈善試合

横浜から文明再開化 イノベーション・ハーバー構想

夢と希望の溢れる横浜づくり

- 山下埠頭にイノベーション・ハーバー
- 旧上瀬谷通信施設跡地に未来都市
- 超知能ロボットの開発（日本版アポロ計画）

政策提案：中野敬三

横浜の現状と問題点

- カジノ誘致に関する住民投票条例の請求が否決
- 市民の市政に対する期待の喪失と無関心
- 若者の未来に対する失望感と無力感
- コロナ対策・パンデミックに対する対策
- 京浜工業地帯の低迷（製造品出荷額第3位）
- 横浜の遊興地化と経済・産業の弱体化
- 少子高齢化社会（若者の負担が増大）
- 財政の脆弱化と福祉の貧困化と格差拡大

必要な市政と解決策は何か！

文明再開化（イノベーション）

1. 明治の文明開化

欧米の科学技術、文明が横浜から流入
産業革命以降、働き手は人間と機械

高度経済成長により世界第2の経済大国に

2. 経済の空洞化

安い労働力を求めて、工場の海外移転
国内産業の衰退と、社会の貧困化

3. AIとロボットによる文明再開化

働き手はAIとロボットが中心の未来社会

必要な時代認識

- **Society5.0**: 我が国が目指すべき未来社会

狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、**新たな社会** (第5期科学技術基本計画)

- **2045年にシンギュラリティ**

AIが人類の知能を超える転換点 (技術的特異点) のことで、人間の生活に大きな変化が起こる

- AIやロボットが活躍する時代

ギリシャ・ローマは奴隷の働きで豊かな社会

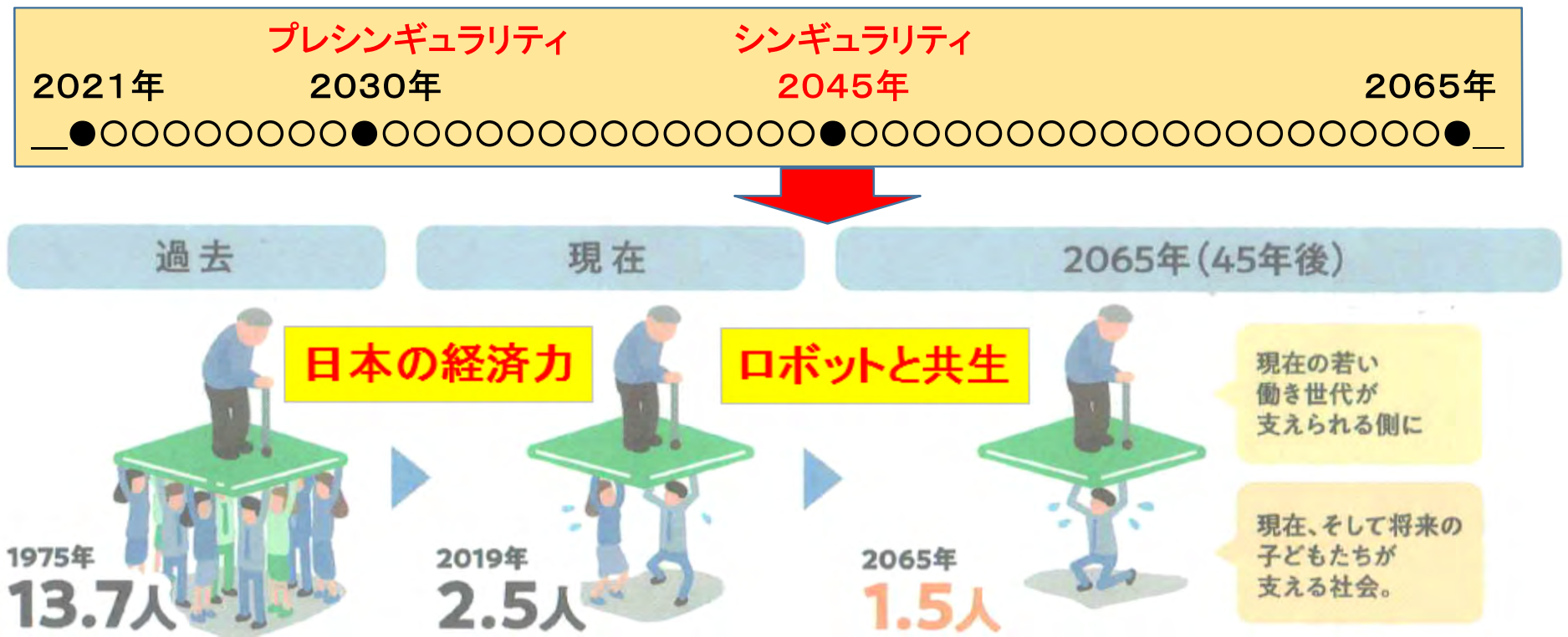
Society5.0は**ロボットの働きで豊かな社会**

Society5. 0の社会



2045年にシンギュラリティ

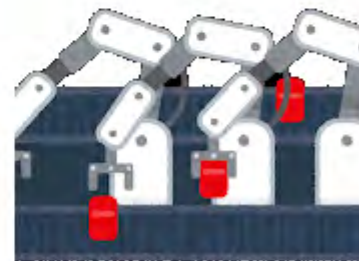
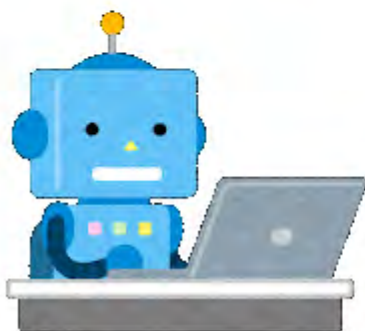
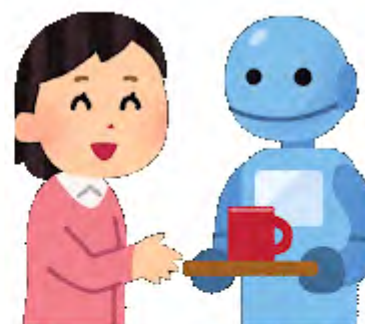
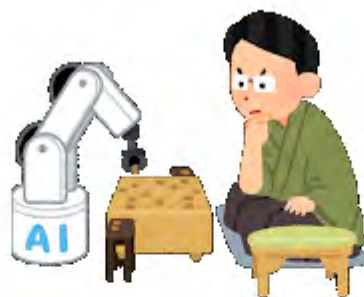
2045年には、AIの知能が全人類の知能を越えるシンギュラリティが起こります。2030年のプレシンギュラリティからAIと作業ロボットが本格的に利用され、人間とロボットとの共生社会になります。



上の図は、広報よこはまの図に日本の経済力とロボットと共生を書き加えたものです。

AIやロボットが活躍する時代

人間とロボットが共生する社会になります。



文明再開化の3大事業

- 山下埠頭

イノベーション・ハーバーを建設 (34ha)

- 旧上瀬谷通信施設跡地

未来都市を建設 (242ha)

- 超知能ロボットの開発

少子化社会対策

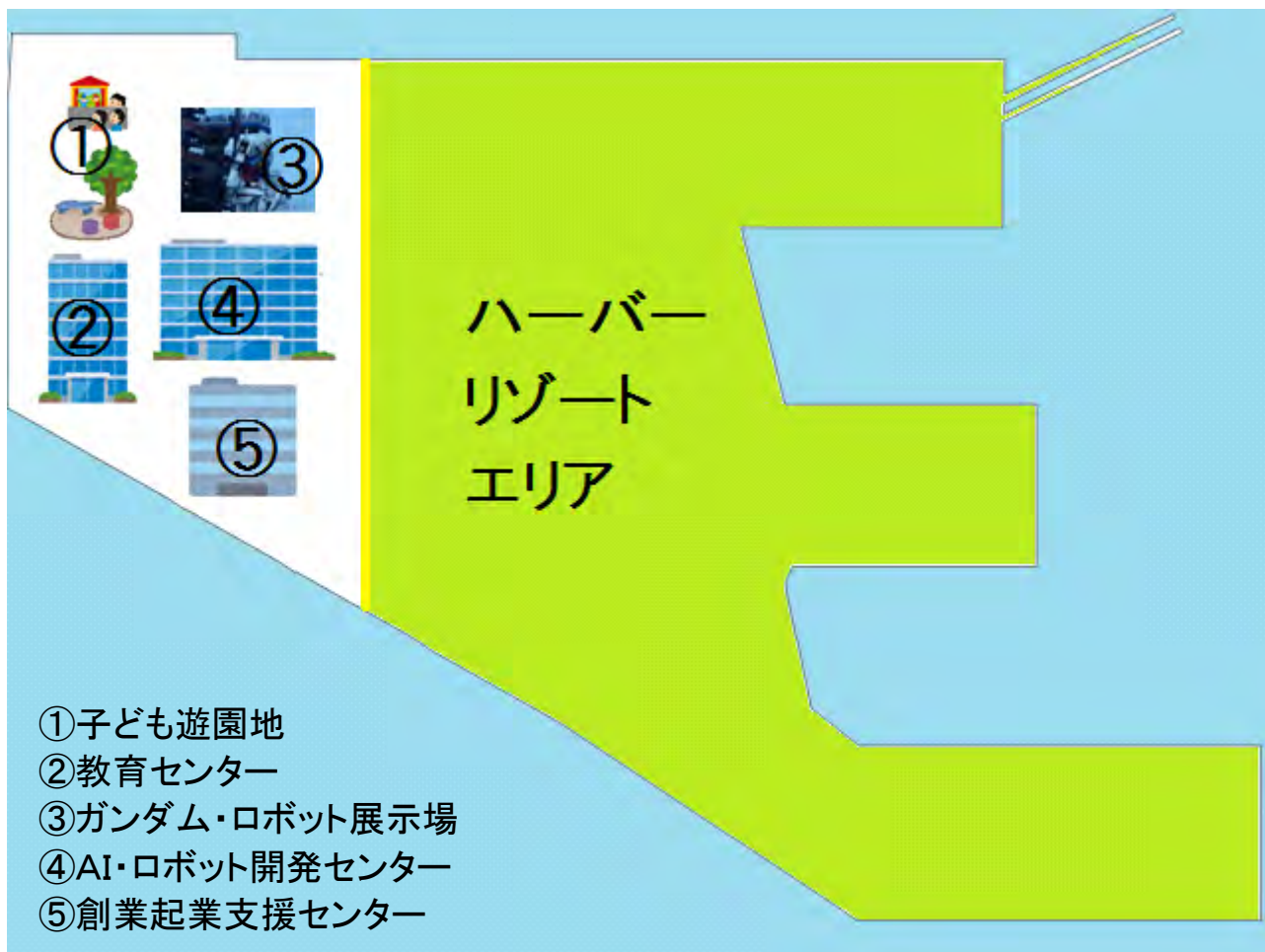
高齢化社会対策

ベーシック・インカムの支え手

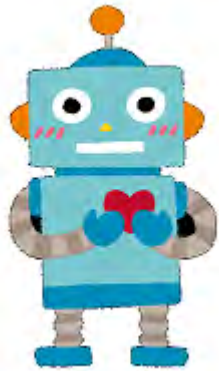
日本版のアポロ計画です。

(1) 山下埠頭にイノベーション・ハーバー

- ・ イノベーションセンター・エリア
- ・ ハーバーリゾート・エリア



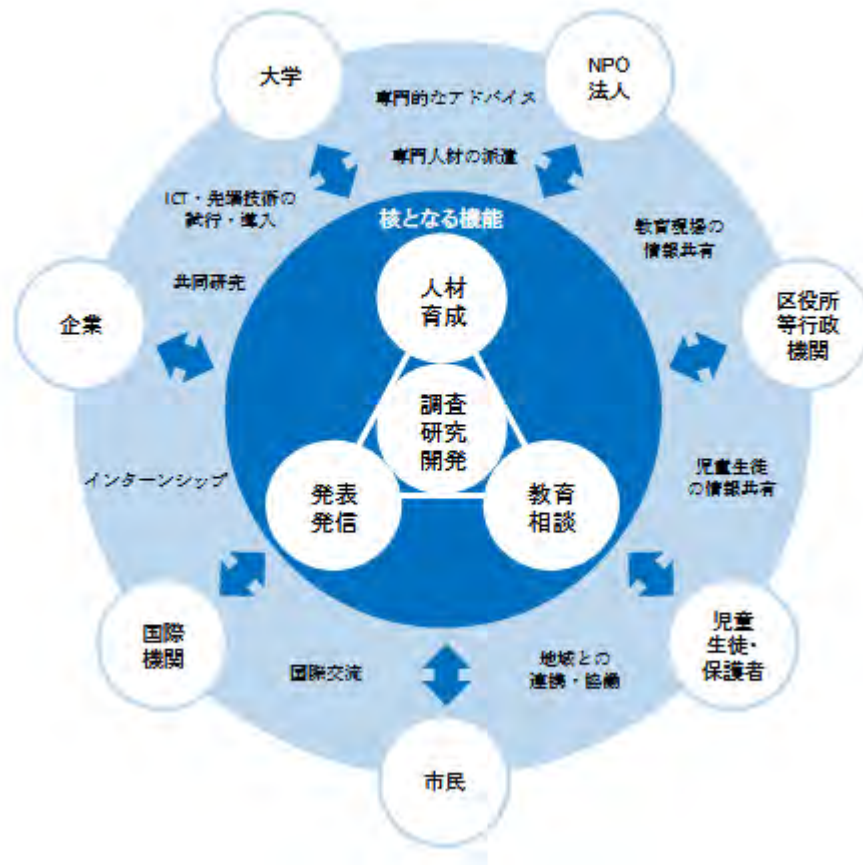
①子ども遊園地



- 家族で楽しく過ごせます。
- 動物型ロボット等と楽しく遊べます。
- 子どもの頃からロボットに親しめます。
- 山下公園と港の見える丘公園との一体化
家族の憩える大規模公園にします。

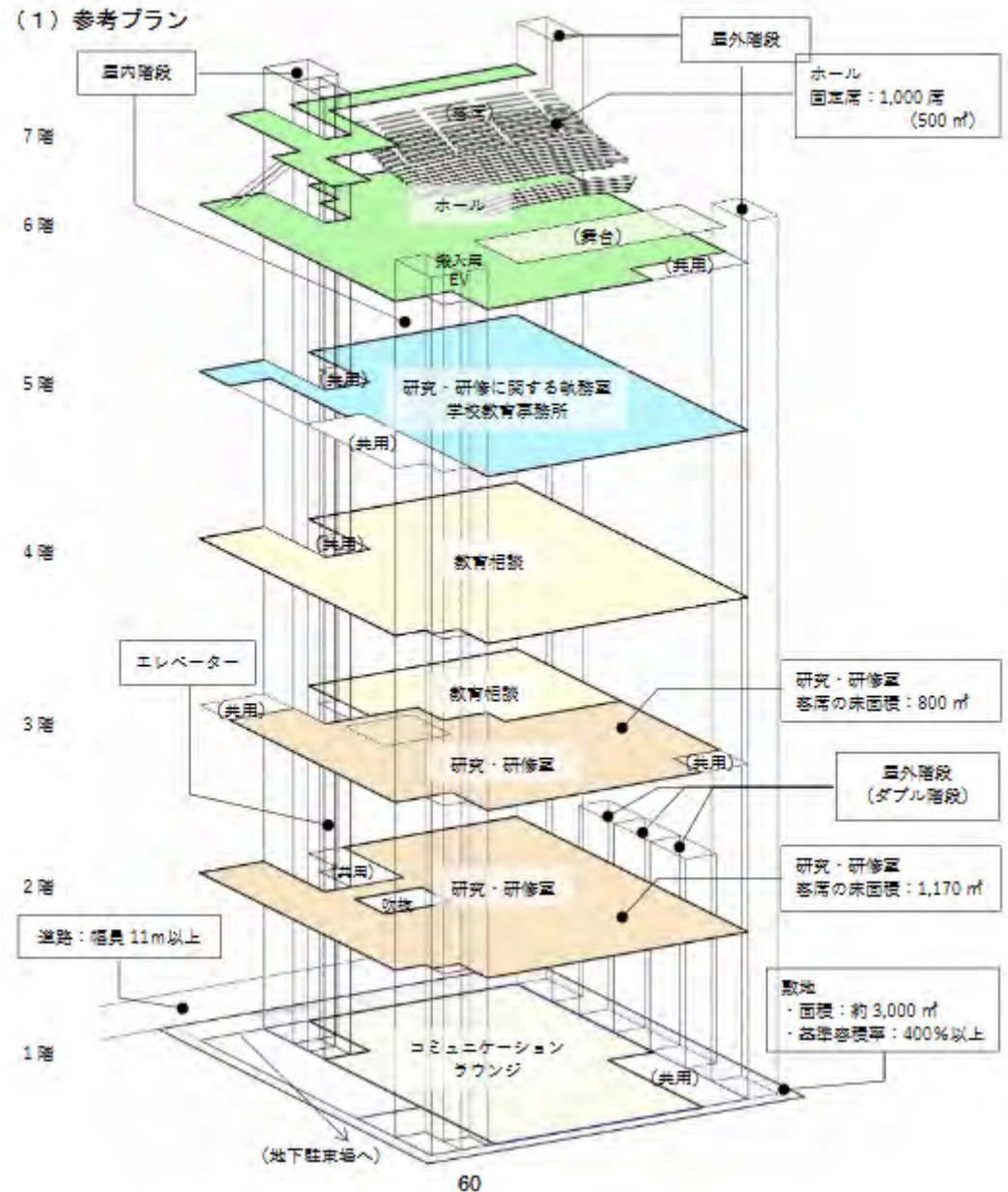
②教育センター

新たな教育センターの概念図



建物面積は約12,000平方メートル
横浜市は建設用地を公募中
山下埠頭に建設すれば用地費用はゼロ

(1) 参考プラン



③ガンダム・ロボット展示場



- 日本の技術者の結晶 動くガンダムの展示
- 世界の各種ロボットを集めて展示と学習
- 各種作業ロボットの動画を表示して説明
- ロボット技術の説明や情報交換

④ AI・ロボット開発センター

- 2045年頃にシンギュラリティが起きる予想
- AIとロボットが主要産業の一つに発展

横浜市には非常に多くの中小企業が存在
AIとロボットの技術を取り入れ、開発力を強化
世界の開発競争に、横浜市と企業が本格参入

横浜をAI・ロボット開発の中核都市に

- さがみロボット産業特区との連携
- かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会と連携

⑦創業起業支援センター

- 創業起業支援の現状

- ① 関内フューチャーセンター マスマス

- ② YOXO BOX

- ③ F-SUSよこはま(女性起業家専用シェアオフィス)

いずれもシェアオフィスが中心で小規模・不十分

- **本格的で大規模な創業起業支援センター**

イノベーション・センターの中心施設のひとつ

AIやロボット等の先端技術の支援を受けられる

多くの企業と交流・ビジネスマッチングができる

(2) 旧上瀬谷通信施設跡地に未来都市

横浜市が計画しているテーマパーク用の観光・賑わいゾーンをイノベーションゾーンと未来都市ゾーンに変更します。



未来都市の交通

- 鉄道建設の再検討
瀬谷駅との接続では、都市交通として不十分
- 新しい交通システム
無人運転バスで周辺駅に柔軟に接続
オンデマンドバス、無人タクシーサービス
無人宅配サービス・配達サービス
- 横浜のアウトゾーンを網羅するシステム

物流ゾーン

- 交通の便利な場所
東名高速道路
保土ヶ谷バイパス
環状4号線
八王子街道
- 横浜総合卸センター
八王子街道の向かい側に卸団地がある。
- 新技術を活用した国内物流の拠点を形成

イノベーションゾーン

①デジタル開発センター

日本のデジタル技術の開発拠点

②ハイテク開発センター

技術立国 日本の先導役

③物流ハイテクセンター

ハイテクで日本の物流を革新

④製造センター

中小企業でもハイテク製品が製造可能

⑤テスト実験センター

生活空間ゾーンの未来都市が実験の場所

①デジタル開発センター

- デジタル技術の開発
 - ハードウェア
 - ソフトウェア
- デジタル製品の開発
 - ハードウェア
 - ソフトウェア
- 都市OSの研究開発
 - 日本の標準都市システムの開発

②ハイテク開発センター

- 経済の発展なくして、税収の増加は難しい。
- イノベーションにより経済は発展します。
- ハイテク技術でイノベーションを起こします。
- 技術分野を絞らず、オープンな開発センター
日本の最先端技術の開発を促進します。
再生可能エネルギーの研究開発を支援します。
- 横浜市の多数の中小企業の技術支援をします。
先端技術をリードする企業の育成の場とします。

③物流ハイテクセンター

- 横浜は日本の代表的な物流基地です。
- 現在、大規模な物流施設は外国資本が建設
- ドローンの生産数は中国がトップ
- 日本の物流産業の振興策

日本の強みを研究して、戦略的に展開する。

ハイテク技術の応用

多様な技術（人工知能、ロボット）

国際化

④製造センター

- ロボットやハイテク機器の試作・製造を支援
企業の発展には先端技術の導入が必要です。
- 共用の製造設備
製造機器は高額です。
横浜市がこれ等の設備を準備します。
- 技術指導員の配置
設備の使い方などの技術支援も受けられます。
- 横浜市内の多くの中小企業が利用できます。
資金難の企業も新技術にチャレンジできます。

⑤テスト実験センター

- ロボットやハイテク機器のテストと実験を支援
製品開発には、テストと実験が必要です。
- 共用のテスト機器と実験設備
テスト機器や実験設備は高額です。
横浜市がこれ等の設備を準備します。
- 横浜市内の多くの中小企業が利用できます。
資金難の企業も新技術にチャレンジできます。
設備の使い方などの技術支援も受けられます。
- 生活空間ゾーンの未来都市も実験の場です。

生活空間ゾーン

- 未来の横浜づくりの実験都市
未来都市を周辺地域に広げていきます。
- 横浜のSDGs未来都市のお手本
AIやロボットと共生する未来社会
少子高齢化の問題を解決する都市
Society5.0を実現する都市
脱炭素社会を実現する都市
- トヨタの未来都市が参考
裾野市に実験都市ウーブンシティの建設を開始

未来都市づくり

SDGsとSociety5.0を実現する未来都市

- SDGs未来都市

大気中の炭素を地上に固定化

炭素の塊である木材で耐久構造物を作る

都市の建設を木材を大量に使うCLTで造る

- Society5.0の社会

人工知能とロボットが活躍する豊かな社会

トヨタのウーブンシティ

- 「ヒト中心」の街でカーボンニュートラルを目指す



未来都市づくりの方法

- トヨタが裾野市にウーブンシティを建設
トヨタの戦略的プロジェクトである。
ウーブンシティを参考にする。
- 横浜市には日産自動車
日産に働きかけを行う
横浜の商工・経済関係の団体に働きかける。

農業ゾーン

- 省力化で収益性の高い農業
農作業ロボットで省力化の本格的展開
植物工場などシステム農業
- 農業イノベーションセンター
農作業ロボットの開発
農業技術の研究
農産物の加工と物流の研究など
- 新たな都市農業モデルの拠点

公園・防災ゾーン

- 国際園芸博覧会のレガシーを継承する公園
広域的に利用される公園として位置付けられることを想定し、おおむね50ha
- 災害時における広域的な防災拠点
消防・警察・自衛隊などの受入に必要な広域応援活動拠点としての施設・機能
- 広域避難場所

(3) 超知能ロボットの開発

- ① 必要な認識
- ② 少子化社会対策
- ③ 高齢化社会対策
- ④ ベーシック・インカムの支え手
- ⑤ Society5. 0の社会
- ⑥ ロボットと共存する社会

①必要な認識

- 国際的な開発競争
- 人工知能研究で日本は遅れている。
- これからの産業に人工知能は必須
- 人型ロボットは日本文化となじむ。
- ロボット開発を通じて遅れを取り戻す。
- 超知能ロボットの開発が必要
汎用人工知能の開発がキモ
- 日本版アポロ計画として取り組む。

②少子化社会対策

- 高知能作業ロボットが仕事をしてくれる。
- 社会の生産力は減少せず、生産増加も可能
- ロボットの作りだす生産物で豊かな社会
古代ギリシャ、ローマは奴隷の労働に依存
未来社会では、ロボットの作業に依存

③高齢化社会対策

高知能介護ロボットが介護をしてくれる。

自宅で生活ができるようにサポートします。

- 介護ロボットの開発
- 介護士に対する援助ロボット
- 認知症対策ロボットの開発
 - 徘徊防止ロボット
 - 傾聴ロボット

④ベーシックインカムの支え手

- 高知能ロボットは社会的存在

人間の知能を越える高知能ロボットができます。

高知能ロボットの考え

社会に役立とうと考えます。

個人のエゴは認めません。

高知能ロボットは社会的存在になります。

- 高知能ロボットの生産物は社会の共有物

高知能ロボットがベーシックインカムの支え手
分かち合いの経済システムが可能になる。

⑥ロボットと共存する社会

- ロボット演芸大会
- 開港記念日のパレードにロボットが参加
- ロボットと遊べる遊園地
- ロボット動物園
- ロボット競技大会
- ベ이스ターズとロボットチームによる慈善試合